

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市第2グループ(大師・藤崎・殿町)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	子ども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	1 大師子ども文化センター	H26	H27	H26	H27
	①年間延べ利用者数	38,743人	41,239人	②年間延べ利用団体数	199団体 204団体
	2 大師小学校わくわくプラザ			②年間延べ利用者数	9,254人 8,951人
	①登録者数	172人	175人	②年間延べ利用者数	10,000人 10,094人
利用実績	3 四谷小学校わくわくプラザ			②年間延べ利用者数	10,000人 10,094人
	①登録者数	152人	151人	②年間延べ利用者数	10,000人 10,094人
	1 藤崎子ども文化センター			②年間延べ利用団体数	204団体 245団体
	①年間延べ利用者数	22,823人	22,453人	②年間延べ利用者数	16,324人 19,932人
利用実績	2 藤崎小学校わくわくプラザ			②年間延べ利用者数	16,324人 19,932人
	①登録者数	242人	276人	②年間延べ利用者数	16,324人 19,932人
	3 川中島小学校わくわくプラザ			②年間延べ利用者数	12,967人 12,928人
	①登録者数	220人	217人	②年間延べ利用者数	12,967人 12,928人
利用実績	1 殿町子ども文化センター			②年間延べ利用団体数	389団体 370団体
	①年間延べ利用者数	33,967人	34,972人	②年間延べ利用者数	12,304人 13,090人
	2 殿町小学校わくわくプラザ			②年間延べ利用者数	12,304人 13,090人
	①登録者数	250人	229人	②年間延べ利用者数	25,478人 30,449人
利用実績	3 東門前小学校わくわくプラザ			②年間延べ利用者数	25,478人 30,449人
	①登録者数	463人	513人	②年間延べ利用者数	25,478人 30,449人
	単位:円				
	1 収入				
指定管理料		149,094,092			
収支実績	2 支出				
	人件費		128,980,985		
	管理費		11,600,165		
	事務経費		8,552,709		
その他経費		4,698,114			
合計		153,831,973			
3 差引		-4,737,881			
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 複数館運営によるスケールメリットを活かし、全市合同事業、区合同事業を開催し、広く交流した。グループ合同事業として川崎市青少年の家での宿泊事業「Eーじゃんキャンプ2015」や、「ネイチャーポイントゲームラリー ～大師公園を探検！～」や「カラーリング大会」を行った。大師子ども文化センターでは子ども110番のステッカーを貼った家を中心に回る「地域ふれあいの旅」を実施し、今年度新たに大師仲見世商店街の協力を得るなど、地域とのつながりを深めている。藤崎子ども文化センターにおいては老人いこいの家との合築施設であるとの特性を活かし、連携事業「みんなで楽しく遊んじゃ王！」を実施し囲碁・将棋などは大人が子どもたちへ、マンガラ・オセロは子どもが大人に教える等、異年齢交流を行っている。また大師こ文では中高生の利用促進を目指し、レクリエーションルンショートテニス「テニボン」に力を入れ、これが人気を博し、特に中学生の年間延べ利用が大幅に増加するなど、行事に工夫を凝らし、実際に利用促進に結びつく結果を残している。わくわくプラザにおいても適切に児童の受け入れが行われ、外遊びや工作など通常の活動に加え、JAL工場見学や、東芝未来科学館見学等、地域資源を活かした活動を企画実施している。また、子ども文化センターについて、グループ内3館の延べ利用人数は前年度と比べ着実な伸びを見ている。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・ 会計手続 効率的・効果的な 支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
	支出に見合う効果が得られているか				
<p>(評価の理由) 会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等による経費削減を図った。また、ペーパーレス化や職員による簡易な修繕を行うなどにより経費の削減を図っている。また、利用者の理解・協力の下、遮光カーテンの設置や扇風機の使用等により光熱水費の削減も図っている。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8	
<p>(評価の理由) 広報について毎月たよりを発行し、子ども支援室や近隣の小学校や地域子育て支援センター等の関係諸機関に配布し利用促進を図る他、ホームページを作成し、利用案内や活動を周知している。また、川崎区第2グループでは、通常たよりに加え、中学生向けたよ、乳幼児親子向けたよを別途作成し、近隣の中学校・高校、幼稚園・保育園、地域子育て支援センターに配布し、それぞれの年齢層に向けた広報による利用促進を図っている。特に藤崎子ども文化センターにおいては行事開催に伴い地域町内会の協力を得ることで、町内会掲示板へのポスター掲示を行い、広く近隣地域へ行事を周知している。特別な配慮を要する児童に対する対応について、全館で学校との連携・保護者との円滑なコミュニケーションに努める他、大師・藤崎子ども文化センターにおいて、「塗り絵」「壁面メッセージ」「かんたん工作」など対象にこだわらず参加ができる事業を行うことで、特別な配慮が必要な児童についても利用しやすい環境づくりを行っている。また、殿町子ども文化センターにおいて、「シークレットノート」を作成し、特別な配慮を要する児童についての職員間の情報共有と状況把握を行っている。地域との連携について、特に藤崎子ども文化センターにおいては、34もの多様な地域連携事業があり、その連携先も町内会や区役所の関連機関など多様である。また、グループ全体について、夏祭りパトロールや清掃活動に職員を参加させることで双方の関係性づくりに努めている。子ども文化センター運営協議会・わくわくプラザ保護者懇談会、子ども運営会議についてこれを定期的に行い、また館に設置した意見箱の活用により、意見を収集し、運営改善に努めている。特に子ども運営会議においては、児童の希望を集めるだけでなく、イベントの内容や、集会室の利用ルールなど館の運営にかかわることまで話し合い、児童が主体的に考え、運営に関わる機会を与えるものとなっている。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。特に、川崎区内の子ども文化センターでは、中学生死亡事件等を踏まえ、区合同研修として、問題を抱えた児童を対象とした「主任講師体験研修」、「不登校児対応研修」を行い、グループとしても「中学生・高校生対応研修」を行う等、更なる研鑽を行っていた。個人情報等の取扱については、わくわくプラザ申込書や保険申込書を各わくわくプラザのキャビネットに施錠の上保管し、前年度までの書類は施錠できる倉庫に保管した。各書類は保存年数を経過したところでシュレッダーにより廃棄処分した。また、講師などから収集する特定個人情報(マイナンバー)についても法人本部に送付の上、法人本部で新たに購入した専用書庫に保管した。情報漏えいや紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
	事故等が発生した場合に適切な対応をしているか				
	感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか				
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 施設、設備等の保守管理について、日常の清掃に加え、法人作成の安全点検マニュアルに沿って、各項目についての開館・開室時の点検を日常化している。各施設において、開閉困難なドアの修繕、老朽化したインターホンの交換など館の实情に応じ施設の整備を行っている。利用者の安全確保について、全職員の普救救命講習の受講、AEDの点検、わくわくプラザにおける登録時のアンケート提出によるアレルギー情報の把握など、種々の安全管理対策を行っている。また、これらの取り組みに加え、藤崎子ども文化センターにおいて館長が地域の「防犯セミナー」に講師として出席し、子どもたちが安心して暮らせる街づくりについて地域との連携を深めている。また、殿町子ども文化センター館長が殿町小学校の郊外生活指導委員会に出席し、地域・学校との連携を深めるなど、地域一体となって子どもの安全を確保するための積極的な活動が見られる。衛生管理についても、乳幼児向け遊具の消毒の徹底、おやつ管理の徹底に加え、グループ各館の研修として地域の医療機関、保育園、小学校教諭を講師として招き、「応急手当」研修を行い、吐しゃ物処理について学んでいる。また、感染症の流行情報や予防について、関係諸機関と情報共有・対応連携を行うなど、積極的な姿勢が見られる。また、防災について、各子ども文化センター・わくわくプラザ毎の防災マニュアルを作成し災害用電話、非常食などの必要な物品の保管場所として小型倉庫を購入し、非常時に備えている。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>指定管理者以前から子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わった経験を活かすとともに、区内子ども文化センター9館合同行事「スマイルフェスタ2015」「川崎二文寄席」を実施した。</p> <p>各館における事業としても、大師子ども文化センターにおける中高生の利用促進を図った「テニボン」により、中学生利用者数を大きく伸ばしている点等、工夫を凝らし活動を活性化しようとする取り組みは高く評価できる。藤崎子ども文化センターにおいては、地域と多く連携をとりながら事業を運営する姿勢が見られ、年1度の子ども文化センターまつりにおいて636名もの参加者を集める成果を残している。</p> <p>また、区内で発生した中学生死亡事件を受け、問題を抱える中学生・高校生に対する研修を区合同で行う等、今後、ますます重要となってくる中高生の居場所づくりを見据えた、職員のスキルアップを図る等、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所の一つとしての役割を十分担っていると見える。</p>
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>引き続き、子ども文化センター及びわくわくプラザの利用者が安心して利用できるような環境整備やスタッフのスキル向上に努め、職員それぞれが意欲をもって運営改善に努めることで、さらに施設が活性化し、利用者にとって居心地の良い場にしていくことを期待する。なお、本グループは昨年度の中学生死亡事件が発生した地域である。これを受けて、問題を抱える中学生・高校生に対する研修、大師子ども文化センターにおける学校警察連絡協議会への館長の出席、殿町子ども文化センターにおける大師中学校月命日パトロールへの参加など、これを受けての地域との連携、情報共有の取り組みを行っている。今後はこれらに加え各館内部において行う取り組みの更なる充実を図り、中高生利用者の抱える問題や悩みを捕捉する機能が充実することを期待する。</p>
--